

## ※気管支鏡検査

肺や気管支の病気を診断して治療を開始したり、治療の効果を判定したりするために行う内視鏡検査です。

気管支鏡の太さは3～6mmくらいの細い管で、病気の種類や用途によって使い分けます。

気管支鏡の先端には、小型の CCD カメラが付いており、気管支の中の様子がリアルタイムで、モニターに映し出される仕組みになっています。

### 1. 方法

局所麻酔薬をのどにかけ、検査台で仰向けになっていただき、気管支鏡を口または鼻から挿入して検査します。

気管支の中を観察し、必要であれば組織を採取したり、肺を洗浄して細胞を回収したりします。

検査時間は通常20～30分程度ですが、検査、処置の内容によってはさらに時間を要する場合があります。

### 2. 危険性

出血、気胸、感染症、麻酔薬によるショック等が起こる場合があります。

合併症に対して内科的、外科的な処置が必要になることがあります。

### 3. 注意点

持病で抗凝固薬（ワーファリン等）や抗血小板薬（バイアスピリンやプラビックス等）、その他「血液をサラサラにする」作用のある薬剤を服用中の患者様は、気管支鏡検査で組織を採取後に出血が止まらなくなることが予測されるので、気管支鏡検査前に担当の医師と相談する必要があります。

### 4. 異常な場合に疑われる病気

肺がん、気管支がん、気管支炎、肺炎、気管支拡張症、肺線維症、びまん性間質性肺疾患、結核など

